

学校関係者評価報告書
2025年度

Shoku-iku



Ecole de Cuisine et Nutrition
HATTORI

学校法人 服部学園
服部栄養専門学校

1. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として関係企業、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの治験を活かした教育内容・学校運営等について評価を行う。評価内容は理事会、学校運営委員会などで報告され、次年度以降の改善の参考とする。

2. 2025年度 学校関係者評価委員会 概要

(1) 評価方法

毎年6月までに前年度についての会議を開催し、委員からの提言を報告書としてまとめる。

(2) 評価委員

角谷 昌哉(サンベルム株式会社 代表取締役社長)

信田 尚男(株式会社和泉利器製作所 代表取締役社長)

岡田 記世子(特定非営利活動法人NPO日本食育インストラクター協会 事務局長)

3. 学校関係者評価委員による自己点検・自己評価項目への提言

1. 教育理念・目的・人材育成像

- ・調理のプロとして“食育”を担う人材を世に送り出してほしいという強い期待がある。
- ・教育カリキュラムや教職員のレベル向上に絶えず取り組んでいる姿勢が伝わる。
- ・前校長が築いた「食育」の精神を受け継ぎ、さらに発展させようとする努力が感じられる。
- ・食の技術・文化・健康という多角的な視点でプロを育成しようとする学校理念に深く共感した。
- ・創造性も大切だが、そのためには基礎が大切という理念は非常に素晴らしい。
- ・どんなに栄養計算されている献立でも、残してしまえば栄養摂取できず、栄養計算も無駄になってしまう。その点で栄養士でもおいしい料理を作ることを目標に掲げていることは素晴らしい。現場でもこのような栄養士が多くなることを願う。
- ・マスターコースで、やる気のある学生たちが専門性を養えることは非常に良い。

2. 学校運営

- ・新年度開始前に、教職員に運営方針(理事会決定)を周知しているのは、全体の方向性統一のために良い。
- ・これからも、「学生のため」という第一目的をしっかりと周知していただきたい。
- ・業務効率化とともに、細やかなケアができる体制を期待する。
- ・システム化し、効率化を図っている点は良い。
- ・公平性や秘匿性、相談しやすい環境、何より信頼関係が非常に大切と感じる。
- ・年齢や国籍が多様な学生を受け入れるため、いち早く学習・生活環境を整備している点に感銘を受けた。
- ・コンプライアンスの観点から、教職員の働く環境や教育システム・施設を常に整え続けている姿勢が高く評価できる。
- ・少子化が加速する厳しい状況でも、運営面と学生育成のバランスを保ち、利益偏重にならないよう取り組んでいる。
- ・向かい風の中でもアイデアを出し合い、スタッフ一丸となって課題に挑む姿勢に期待している。

3. 教育活動

- ・基礎から応用まで幅広く学べる点はとても良い。

- ・予習・復習ができるのは、知識や技術の更に向上に繋がるため学生にとっても良い。
- ・業界ニーズに基づき、毎年カリキュラムの改善を行っている点は、評価できる。
- ・トレンド変化の早い外食業界で活躍できる人材育成のために、毎年カリキュラム改善や企業との連携など積極的に行っている点は、非常に評価でき、学生募集や就職に関し、学校の強みにもなると感じる。
- ・高いプロ意識を備えた卒業生を継続的に社会へ送り出している点が評価できる。
- ・カリキュラムの見直しや時代に合わせた環境整備により、学生のレベルアップを常に図っている。
- ・志を持つ全ての学生が優れたスキルを身につけて卒業できる教育・環境づくりを今後も推進してほしい。

4. 学修成果

- ・学校側が行ってほしい就職先ではなく、学生が行きたい就職先を見つけるために、面談などを行い、早期に分野選択ができるようにしている点は、非常に良い。
- ・卒業生がたくさん活躍しているが、今後は、「服部栄養専門学校卒業」というように学校名がもっともっと前に出るとより良いと感じる。
- ・AIが進展して経費削減や少子化対策が進む中でも、人にしか生み出せない“モノ”や“コト”を創造する技術・発想を育てている点が魅力的。
- ・授業では働く意義や先輩の体験談を交え、現場で困難を乗り越えられるメンタル面の強化も図ってほしい。
- ・技術・知識・メンタルのバランスは、コミュニケーション能力が不足しがちなこれからの社会で欠かせない。

5. 学生支援

- ・卒業生が協力してくれる体制が整っていることは素晴らしい。
- ・すぐに退職してしまう人が社会でも問題視されているため、プロを養成する専門学校としてのフォローを、今まで以上に期待する。素晴らしい内容の学習をし、確かな技術を身につけた卒業生が飲食業界から離れてしまうことは大変な損失であり、非常にもったいないと思う。
- ・学生の学習環境や経済面のサポートを常に重視している点に強く感心している。
- ・進路相談窓口では、スタッフが学生の気持ちに寄り添い、時に先輩のように、時に社会人の大先輩として親身にサポートしている姿勢が高く評価できる。
- ・今後、複雑なメンタルを抱える学生が増える可能性にも備え、支援体制をさらにレベルアップしてほしい。

6. 教育環境

- ・防災意識の高さを評価する。学生だけでなく、学生を守るために教職員の対応が非常に重要になるため、誘導などをしっかり決めておくより良いと感じる。
- ・施設・設備については、学生の安全のために、メンテナンス強化を継続して行ってほしい。
- ・学生に本物を体験し、感じ取ってほしいという意図を感じる。
- ・器具などはもちろん、照明なども意識している点は、食育のリーダー校としても評価できる。
- ・施設は日常的に部分修繕を行い、特に数年前のトイレ刷新で衛生管理を徹底している。
- ・トイレマナーの啓発とウイルス感染予防にも細やかに配慮している。

7. 学生募集・受け入れ

- ・専門学校としては、この部分が学校運営に大きくかわるため、要となる事項であると思う。高校との信頼関係を築き、より良い循環になることを期待する。
- ・ガイダンス増加については、各地の卒業生なども協力してもらおうとよいのではないかと考える。
- ・ガイダンスの方法と費用対効果を分析し、効率的なアプローチへ改善を進めていくべき。

- ・SNSを活用した新たな宣伝手法を検証し、少子化対策を加速してほしい。

8. 財務

- ・四半期ごとにチェックし、補正している点は評価する。
- ・経費削減は大切だが、プロを育てる専門学校として、教職員の人材育成に今まで以上に強化・費用計上もしっかりと行い、常にスキルアップ、パワーアップする学校であってほしいと願う。
- ・会計監査では経費の内訳と業務内容を徹底的に精査し、費用の適正化を図ってほしい。
- ・企業との共同プロジェクトやメディア向けの料理制作協力など、外部事業報酬を積極的に拡大していくべき。
- ・需要が戻りつつある今、さらなる案件獲得に向けて営業・提案活動を強化してほしい。

9. 法令等の遵守

- ・常に運営の見える化、意思疎通を図っている点は素晴らしい。共に働くには、何より信頼関係が非常に大切。
- ・年々厳格化するコンプライアンスに対応できるよう、最新の法規制を常にチェックし体制整備を進めていくべき。
- ・教職員だけでなく学生にも、授業や研修を通じてコンプライアンス意識を高める教育を行ってほしい。
- ・トラブル発生時の対処フローやマニュアルを事前に整備し、迅速に対応できる仕組みを確立しておくべき。

10. 社会貢献

- ・食育のリーダー校として、もっと食育を前面に打ち出してほしい。
- ・改めて服部幸應先生の食育を教職員全員で再復習し、学校内の人は、誰でもが食育を伝えられる人となることを願う。
- ・食品ロス削減のための知恵や技術を考え、伝える社会貢献を期待する。
- ・前校長が築いた食育活動の理念を新校長がしっかり継承し、主体的に推進してほしい。
- ・食育に関する取り組みを、生徒募集や広報活動と連携させ、学校の魅力として発信していくべき。
- ・ボランティア活動には感謝の姿勢を示し、参加する職員・スタッフ・学生の志を高く評価してほしい。